

## 浜の活力再生プラン (第2期)

### 1 地域水産業再生委員会 (ID: 1130004)

組織名	香川県地域水産業再生委員会 西讃地区部会
代表者名	部会長 浅野博海

再生委員会の 構成員	栗島漁業協同組合、詫間漁業協同組合、西詫間漁業協同組合、仁尾町漁業協同組合、西かがわ漁業協同組合、観音寺漁業協同組合、伊吹漁業協同組合 三豊市、観音寺市 香川県、香川県漁業協同組合連合会
オブザーバー	

対象となる地域の 範囲及び漁業の種類	<p>[範囲] 香川県西部地域 (三豊市、観音寺市)</p> <p>[漁業の種類] 魚類養殖業 (2経営体)、カキ養殖業 (9経営体)、小型機船底びき網漁業 (125経営体)、瀬戸内海機船船びき網漁業 (17経営体)、二そうさより機船船びき漁業 (5経営体)、ごち網漁業 (8経営体)、流しさし網漁業 (116経営体)、たこつぼなわ漁業 (46経営体)、建網漁業 (40経営体)、延べ縄漁業 (14経営体)、せん漁業 (28経営体) 計410経営体</p>
-----------------------	--

### 2 地域の現状

#### (1) 関連する水産業を取り巻く現状等

西讃地域は比較的単調な海岸線と緩い潮流、干満差の大きい潮汐の燧灘東部と複雑な海底地形、早い潮流の備讃瀬戸西部からなる。かつて燧灘側には広大な干潟が存在したが、干潟干拓事業等により農地、工業用地等に変わってきた経緯がある。備讃瀬戸側でも工業団地造成のため浅海域が埋め立てられ、広大なアマモ場が消滅した。

漁業種類については、小型機船底びき網、さし網、機船船びき網などが主要な漁業として営まれているほか、カキ養殖業が漁業生産の中心となっている。

本地域では漁船漁業の生産比率が90%以上であり、漁船漁業の盛んな地域となっている。なかでも、カタクチイワシが地域内の水揚量の8割を占めており、カタクチイワシを原料に製造する煮干の生産状況が地域の水産業に大きな影響を及ぼす構造となっている。

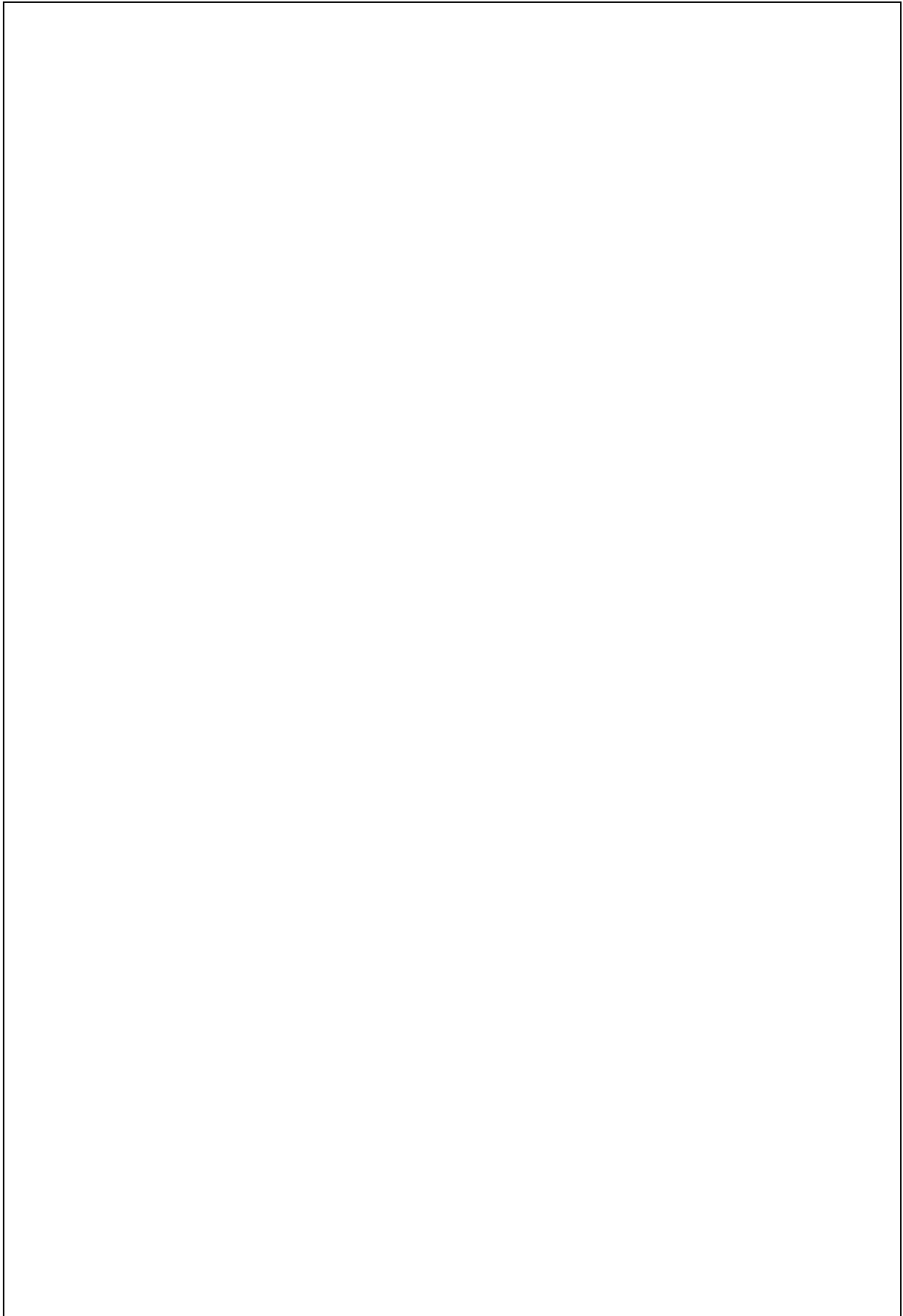
しかしながら、近年の漁業コストの上昇、魚価の低迷により漁業で生計を立てるのは難しい状況であり、漁業経営体数は減少の一途をたどっている。

#### (2) その他の関連する現状等

- ・ 近接する地域に小規模な魚市場が点在している。
- ・ 主要な漁業には、若手漁業者も存在するが、地区全体的に高齢化が進んでいる。

### 3 活性化の取組方針

#### (1) 前期の浜の活力再生プランにかかる成果及び課題等





**(2) 今期の浜の活力再生プランの基本方針**

○漁業収入の向上

第1期で取組効果があり、継続・拡大する取組

- ・地元水産物の認知度向上及び消費拡大
- ・水産加工品の開発及び新規販路の開拓
- ・瀬戸内国際芸術祭を活用した販売促進
- ・収入の安定化
- ・浜の多面的機能発揮

○漁業コスト削減

第1期で取組効果があり、継続・拡大する取組

- ・省燃油対策の継続

**(3) 漁獲努力量の削減・維持及びその効果に関する担保措置**

香川県資源管理指針に沿って各漁業協同組合が定めた資源管理計画に基づき、漁獲努力量の削減に努めており、その履行については香川県資源管理協議会が確認を行っている。

**(4) 具体的な取組内容（毎年ごとに数値目標とともに記載）**

1年目（平成31年度）

取組の内容は、取組の進捗状況や得られた成果等を踏まえ、必要に応じ見直すこととする。

漁業収入向上の  
ための取組

漁業収入向上のため、次の取組を実施する。（基準年より0.6%増加）  
○地元水産物の認知度向上及び消費拡大

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地区内の全漁業者は、県・水産関連団体（香川県漁業協同組合連合会、さぬき海の幸販売促進協議会等：以下同様）と連携し、地元の水産物が一堂に会したイベントを活用し、県内水産物の認知度向上を図る。</li> <li>・地区内の全漁業者と漁協女性部は、漁協の協力を得て県・水産関連団体と連携し、カタクチイワシを初めとした地元水産物を使った食育教室や県内小中学校の給食食材として提供について学校関係者と協議し、新鮮でおいしい地元水産物の認知度向上を促進する。</li> </ul> <p>○水産加工品の開発及び新規販路の開拓</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地区内の船びき網漁業者 17 統は、食品加工会社と連携し、イリコ等を使った新たな水産加工品を開発し、新たな販売先を確保することにより、安定的な販売量確保を目指す。</li> <li>・域内宿泊施設、飲食店と業務連携し、観光客等に地元で獲れた新鮮な水産物を提供するため、協議を開始する。</li> </ul> <p>○収入の安定化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁協は、漁業共済、積立ぶらすへの加入を促進し、自然災害や不漁などに起因した漁業収入の不安定に備える。</li> </ul> <p>○浜の多面的機能発揮</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁業者は、漁協の協力得てゴミ掃除等の沿岸域の環境美化、漂流漂着物の処理等を推進する。</li> <li>・漁業者は、漁協等の協力を得て、海底耕うんや藻礁、魚礁の設置等による漁場環境の保全活動に努め、稚魚放流等の資源造成や資源管理の取り組みを実施する。</li> </ul> <p>○瀬戸内国際芸術祭を活用した販売促進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2016 年に開催された瀬戸内国際芸術祭において、会場全体へは 104 万人、西讃の会場へは国内外から 4 万人を越える来場者があり、香川県は賑わいをみせた。2019 年開催される「瀬戸内国際芸術祭」では、食材提供やメニュー開発等により、情報発信力の高いメディア関係者の協力を得ながら、県内水産物の PR を促進するとともに、地域内の全漁業者が観光協会等と連携して、積極的な情報発信を行い、一時的な水産物売上を伸ばすだけでなく、香川の水産物の素晴らしさを県外・国外の方に認識してもらい、長期的な販売量底上げにつなげ、販売促進を図る。</li> </ul> <p>○漁港機能強化等の施設整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地区内の全漁業者は、漁協の協力を得ながら、クレーン設備等の作業効率化を図るため、漁港機能の強化を計画的に実施する。</li> </ul>
<p><b>漁業コスト削減のための取組</b></p>	<p>漁業コスト削減のため、次の取組を実施する。(基準年より 0.2%削減)</p> <p>○省燃油対策の継続</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁業経営セーフティネット構築事業に参加する地区内の漁業者は、減速航行、船底清掃を実施し、燃料の消費を削減する。</li> <li>・地区内の漁業者は、競争力の高い機器への換装を推進する。</li> <li>・漁協は、漁業経営セーフティネット構築事業への加入を推進する。</li> </ul>
<p><b>活用する支援措</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漁業人材育成総合支援事業 [国]</li> </ul>

置等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 漁業経営セーフティネット構築事業 [国]</li> <li>・ 水産多面的機能発揮対策事業 [国]</li> <li>・ 浜の活力再生交付金 [国]</li> <li>・ 香川県水産振興総合対策事業 [県]</li> </ul>
----	---

2年目（平成32年度）

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>漁業収入向上のため、次の取組を実施する。（基準年より 1.2%増加）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地元水産物の認知度向上及び消費拡大 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地区内の全漁業者は、県・水産関連団体（香川県漁業協同組合連合会、さぬき海の幸販売促進協議会等：以下同様）と連携し、地元の水産物が一堂に会したイベントを活用し、県内水産物の認知度向上を図る。</li> <li>・ 地区内の全漁業者と漁協女性部は、漁協の協力を得て県・水産関連団体と連携し、カタクチイワシを初めとした地元水産物を使った食育教室や県内小中学校の給食食材として提供について学校関係者と協議し、新鮮でおいしい地元水産物の認知度向上を促進する。</li> </ul> </li> <li>○ 水産加工品の開発及び新規販路の開拓 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地区内の船びき網漁業者 17 統は、食品加工会社と連携し、イリコ等を使った新たな水産加工品を開発し、新たな販売先を確保することにより、安定的な販売量確保を目指す。</li> <li>・ 昨年の協議を踏まえ、域内宿泊施設、飲食店と業務連携し、観光客等に地元で獲れた新鮮な水産物を提供する。</li> </ul> </li> <li>○ 収入の安定化 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 漁協は、漁業共済、積立ぷらすへの加入を促進し、自然災害や不漁などに起因した漁業収入の不安定に備える。</li> </ul> </li> <li>○ 浜の多面的機能発揮 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 漁業者は、漁協の協力得てゴミ掃除等の沿岸域の環境美化、漂流漂着物の処理等を推進する。</li> <li>・ 漁業者は、漁協等の協力を得て、海底耕うんや藻礁、魚礁の設置等による漁場環境の保全活動に努め、稚魚放流等の資源造成や資源管理の取り組みを実施する。</li> </ul> </li> <li>○ 瀬戸内国際芸術祭を活用した販売促進 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 昨年開催された「瀬戸内国際芸術祭」における食材提供先や開発メニュー等を活用し、県内水産物の PR を促進するとともに、2010 年から開始した「瀬戸内国際芸術祭」が 10 周年を迎えることから、地域内の全漁業者が観光協会等と連携して、積極的な情報発信を行い、一時的な水産物売上を伸ばすだけでなく、香川の水産物の素晴らしさを県外・国外の方に認識してもらい、長期的な販売量底上げにつなげ、販売促進を図る。</li> </ul> </li> <li>○ 漁港機能強化等の施設整備 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地区内の全漁業者は、漁協の協力を得ながら、クレーン設備等の作業効率化を図るため、漁港機能の強化を計画的に実施する。</li> </ul> </li> </ul>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>漁業コスト削減のため、次の取組を実施する。（基準年より 0.4%削減）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 省燃油対策の継続</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 昨年の結果を踏まえ全漁船は、減速航行、船底清掃を実施し、燃料の消費を削減する。</li> <li>・ 競争力の高い機器に換装した地区内の漁業者は競争力強化型機器による操業により、省力・省コストに取り組む。</li> <li>・ 漁協は、漁業経営セーフティネット構築事業への加入を推進する。</li> </ul>
活用する支援措置等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 漁業人材育成総合支援事業 [国]</li> <li>・ 漁業経営セーフティネット構築事業 [国]</li> <li>・ 水産多面的機能発揮対策事業 [国]</li> <li>・ 浜の活力再生交付金 [国]</li> <li>・ アオノリ生産拡大推進事業 [県]</li> <li>・ 香川県水産振興総合対策事業 [県]</li> </ul>

### 3年目（平成33年度）

漁業収入向上のための取組	<p>漁業収入向上のため、次の取組を実施する。（基準年より 1.8%増加）</p> <p>○地元水産物の認知度向上及び消費拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地区内の全漁業者は、県・水産関連団体（香川県漁業協同組合連合会、さぬき海の幸販売促進協議会等：以下同様）と連携し、地元の水産物が一堂に会したイベントを活用し、県内水産物の認知度向上を図る。</li> <li>・ 地区内の全漁業者と漁協女性部は、漁協の協力を得て県・水産関連団体と連携し、カタクチイワシを初めとした地元水産物を使った食育教室や県内小中学校の給食食材として提供について学校関係者と協議し、新鮮でおいしい地元水産物の認知度向上を促進する。</li> <li>・ 「瀬戸内国際芸術祭」で積極的に情報発信した県内水産物を地域内の全漁業者が観光協会等と連携して、一時的な水産物売上を伸ばすだけでなく、SNS等を活用しながら香川の水産物の素晴らしさを県外・国外の方に認識してもらい、長期的な販売量底上げにつなげる。</li> </ul> <p>○水産加工品の開発及び新規販路の開拓</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地区内の船びき網漁業者 17 統は、食品加工会社と連携し、イリコ等を使った新たな水産加工品を開発し、新たな販売先を確保することにより、安定的な販売量確保を目指す。</li> <li>・ 昨年の協議を踏まえ、域内宿泊施設、飲食店と業務連携し、観光客等に地元で獲れた新鮮な水産物を提供するため、メニュー等について試行を開始する。</li> </ul> <p>○収入の安定化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 漁協は、漁業共済、積立ぶらすへの加入を促進し、自然災害や不漁などに起因した漁業収入の不安定に備える。</li> </ul> <p>○浜の多面的機能発揮</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 漁業者は、漁協の協力得てゴミ掃除等の沿岸域の環境美化、漂流漂着物の処理等を推進する。</li> <li>・ 漁業者は、漁協等の協力を得て、海底耕うんや藻礁、魚礁の設置等による漁場環境の保全活動に努め、稚魚放流等の資源造成や資源管理の取り組みを実施する。</li> </ul>
--------------	--

	<p>○漁港機能強化等の施設整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地区内の全漁業者は、漁協の協力を得ながら、クレーン設備等の作業効率化を図るため、漁港機能の強化を計画的に実施する。</li> </ul>
漁業コスト削減のための取組	<p>漁業コスト削減のため、次の取組を実施する。(基準年より 0.6%削減)</p> <p>○省燃油対策の継続</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全漁船は、減速航行、船底清掃を実施し、燃料の消費を削減する。</li> <li>・競争力の高い機器に換装した地区内の漁業者は競争力強化型機器による操業により、省力・省コストに取り組む。</li> <li>・漁協は、漁業経営セーフティネット構築事業への加入を推進する。</li> </ul>
活用する支援措置等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漁業人材育成総合支援事業 [国]</li> <li>・漁業経営セーフティネット構築事業 [国]</li> <li>・水産多面的機能発揮対策事業 [国]</li> <li>・浜の活力再生交付金 [国]</li> <li>・アオノリ生産拡大推進事業 [県]</li> <li>・香川県水産振興総合対策事業 [県]</li> </ul>

#### 4年目(平成34年度)

漁業収入向上のための取組	<p>漁業収入向上のため、次の取組を実施する。(基準年より 2.4%増加)</p> <p>○地元水産物の認知度向上及び消費拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地区内の全漁業者は、県・水産関連団体(香川県漁業協同組合連合会、さぬき海の幸販売促進協議会等:以下同様)と連携し、地元の水産物が一堂に会したイベントを活用し、県内水産物の認知度向上を図る。</li> <li>・地区内の全漁業者と漁協女性部は、漁協の協力を得て県・水産関連団体と連携し、カタクチイワシを初めとした地元水産物を使った食育教室や県内小中学校の給食食材として提供について学校関係者と協議し、新鮮でおいしい地元水産物の認知度向上を促進する。</li> <li>・昨年に引き続き、「瀬戸内国際芸術祭」で積極的に情報発信した県内水産物を地域内の全漁業者が観光協会等と連携して、一時的な水産物売上を伸ばすだけでなく、SNS等を活用しながら香川の水産物の素晴らしさを県外・国外の方に認識してもらい、長期的な販売量底上げにつなげる。</li> </ul> <p>○水産加工品の開発及び新規販路の開拓</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地区内の船びき網漁業者17統は、食品加工会社と連携し、イリコ等を使った新たな水産加工品を開発し、新たな販売先を確保することにより、安定的な販売量確保を目指す。</li> <li>・昨年の協議を踏まえ、域内宿泊施設、飲食店と業務連携し、観光客等に地元で獲れた新鮮な水産物を提供するため、メニュー等について販売を開始する。</li> </ul> <p>○収入の安定化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁協は、漁業共済、積立ぶらすへの加入を促進し、自然災害や不漁などに起因した漁業収入の不安定に備える。</li> </ul>
--------------	---

	<p>○浜の多面的機能発揮</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁業者は、漁協の協力得てゴミ掃除等の沿岸域の環境美化、漂流漂着物の処理等を推進する。</li> <li>・漁業者は、漁協等の協力を得て、海底耕うんや藻礁、魚礁の設置等による漁場環境の保全活動に努め、稚魚放流等の資源造成や資源管理の取り組みを実施する。</li> </ul> <p>○漁港機能強化等の施設整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地区内の全漁業者は、漁協の協力を得ながら、クレーン設備等の作業効率化を図るため、漁港機能の強化を計画的に実施する。</li> </ul>
漁業コスト削減のための取組	<p>漁業コスト削減のため、次の取組を実施する。(基準年より 0.8%削減)</p> <p>○省燃油対策の継続</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全漁船は、減速航行、船底清掃を実施し、燃料の消費を削減する。</li> <li>・競争力の高い機器に換装した地区内の漁業者は競争力強化型機器による操業により、省力・省コストに取り組む。</li> <li>・漁協は、漁業経営セーフティネット構築事業への加入を推進する。</li> </ul>
活用する支援措置等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漁業人材育成総合支援事業 [国]</li> <li>・漁業経営セーフティネット構築事業 [国]</li> <li>・水産多面的機能発揮対策事業 [国]</li> <li>・浜の活力再生交付金 [国]</li> <li>・アオノリ生産拡大推進事業 [県]</li> <li>・香川県水産振興総合対策事業 [県]</li> </ul>

#### 5年目(平成35年度)

取組の最終年であり、以下の取組を引き続き行うが、目標達成を確実なものとするよう、プランの取組の成果を検証し必要な見直しを行う。

漁業収入向上のための取組	<p>漁業収入向上のため、次の取組を実施する。(基準年より 3.0%増加)</p> <p>○地元水産物の認知度向上及び消費拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地区内の全漁業者は、県・水産関連団体(香川県漁業協同組合連合会、さぬき海の幸販売促進協議会等:以下同様)と連携し、地元の水産物が一堂に会したイベントを活用し、県内水産物の認知度向上を図る。</li> <li>・地区内の全漁業者と漁協女性部は、漁協の協力を得て県・水産関連団体と連携し、カタクチイワシを初めとした地元水産物を使った食育教室や県内小中学校の給食食材として提供について学校関係者と協議し、新鮮でおいしい地元水産物の認知度向上を促進する。</li> <li>・昨年に引き続き「瀬戸内国際芸術祭」で積極的に情報発信した県内水産物を地域内の全漁業者が観光協会等と連携して、一時的な水産物売上を伸ばすだけでなく、SNS等を活用しながら香川の水産物の素晴らしさを県外・国外の方に認識してもらい、長期的な販売量底上げにつなげる。</li> </ul> <p>○水産加工品の開発及び新規販路の開拓</p>
--------------	--



	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地区内の船びき網漁業者 17 統は、食品加工会社と連携し、イリコ等を使った新たな水産加工品を開発し、新たな販売先を確保することにより、安定的な販売量確保を目指す。</li> <li>・昨年の協議を踏まえ、域内宿泊施設、飲食店と業務連携し、観光客等に地元で獲れた新鮮な水産物を提供するため、メニュー等について販売を開始する。</li> </ul> <p>○収入の安定化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁協は、漁業共済、積立ふらすへの加入を促進し、自然災害や不漁などに起因した漁業収入の不安定に備える。</li> </ul> <p>○浜の多面的機能発揮</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁業者は、漁協の協力得てゴミ掃除等の沿岸域の環境美化、漂流漂着物の処理等を推進する。</li> <li>・漁業者は、漁協等の協力を得て、海底耕うんや藻礁、魚礁の設置等による漁場環境の保全活動に努め、稚魚放流等の資源造成や資源管理の取り組みを実施する。</li> </ul> <p>○漁港機能強化等の施設整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地区内の全漁業者は、漁協の協力を得ながら、クレーン設備等の作業効率化を図るため、漁港機能の強化を計画的に実施する。</li> </ul>
<b>漁業コスト削減のための取組</b>	<p>漁業コスト削減のため、次の取組を実施する。(基準年より 1.0%削減)</p> <p>○省燃油対策の継続</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全漁船は、減速航行、船底清掃を実施し、燃料の消費を削減する。</li> <li>・競争力の高い機器に換装した地区内の漁業者は競争力強化型機器による操業により、省力・省コストに取り組む。</li> <li>・漁協は、漁業経営セーフティネット構築事業への加入を推進する。</li> </ul>
<b>活用する支援措置等</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漁業人材育成総合支援事業 [国]</li> <li>・漁業経営セーフティネット構築事業 [国]</li> <li>・水産多面的機能発揮対策事業 [国]</li> <li>・浜の活力再生交付金 [国]</li> <li>・アオノリ生産拡大推進事業 [県]</li> <li>・香川県水産振興総合対策事業 [県]</li> </ul>

#### (5) 関係機関との連携

<p>○香川県水産試験場との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・水産試験場が行う資源管理に関する調査の結果を基に、効率的な資源管理に努める。</li> <li>・当地域での水質等環境条件に適した養殖技術について研究を共同で行う。</li> </ul> <p>○他地域との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他地域の漁業協同組合とも連携し、運送の共同運行などにより流通コストの削減を目指す。</li> </ul>
---

#### 4 目標

##### (1) 所得目標

漁業所得の向上 10%以上	基準年	平成 25～29 年の 5 中 3 平均：漁業所得	千円
	目標年	平成 35 年度：漁業所得	千円

##### (2) 上記の算出方法及びその妥当性

##### (3) 所得目標以外の成果目標

1 組合員当たり販売・購買事業 取扱高の 9%以上の向上	基準年	平成 25～29 年度 5 ヶ年平均	千円
	目標年	平成 31～35 年度 5 ヶ年平均	千円

##### (4) 上記の算出方法及びその妥当性

- 基準年の算出方法は、地区内漁業協同組合業務報告書（平成 25 年～29 年）で示されている販売事業取扱高と購買事業供給高の合計額を地区内組合員数で除した、過去 5 年間における 1 組合員当たりの販売・購買事業取扱高平均値（ 千円）とした。
- 目標年の設定は、浜の活力再生プランの取組みを実施することにより、下記のとおり、地区内 1 組合員当たりの販売・購買事業取扱高の年間向上率 3%を設定し、プラン期間内平均値を基準より 9%向上させ、弱体化する漁協組織基盤を改善する。

基準年：H25～29 年度地区内 1 組合員当たりの販売・購買事業取扱高平均値（ 千円）

1 組合員当たり販売・購買事業取扱高、向上割合

	取扱高	対基準年向上率 (%)
1 年目 (31 年度)		3.0
2 年目 (32 年度)		6.0
3 年目 (33 年度)		9.0
4 年目 (34 年度)		12.0
5 年目 (35 年度)		15.0

5 ヶ年平均		9.0
--------	--	-----

## 5 関連施策

### 活用を予定している関連施策名とその内容及びプランとの関係性

事業名	事業内容及び浜の活力再生プランとの関係性
・漁業人材育成総合支援事業〔国〕	意欲のある新規漁業就業者の安定的な確保・定着を図るため、漁業の将来を担う人材を育成支援し、浜の活力再生プランで目指す漁村地域の活性化に寄与する。
・漁業経営セーフティネット構築事業〔国〕	燃油経費への負担を軽減し、漁業コストを削減することにより、浜の活力再生プランで目指す漁業者の収入増に寄与する。
・水産多面的機能発揮対策事業〔国〕	沿岸域の環境美化、藻場・干潟の保全、海難救助など、浜の持つ多面的機能を発揮する活動を実施することにより、浜の活力再生プランで目指す漁村地域の活性化に寄与する。
・浜の活力再生交付金（水産関係地方公共団体交付金等実施要領に係るもの）〔国〕	水産資源の持続的な利用・管理の推進、水産業経営の強化及び漁港機能の強化等を図ることにより、浜の活力再生プランで目指す漁業者の収入増に寄与する。
・香川県水産振興総合対策事業〔県〕	水産物の販売促進、食育活動等に取り組むことにより、浜の活力再生プランで目指す漁業者の収入増に寄与する。
・アオノリ生産拡大推進事業〔県〕	新たな藻類養殖であるアオノリ養殖に取り組むことにより、浜の活力再生プランで目指す漁業者の収入増に寄与する。